

パリっぼく住む／バレンタインの贈り物／冷え

クワッサン

プレミアム

おしゃれも生き方も、遊び上手

Premium

インテリア  
大特集

人生を楽しむにはインテリアが必要です

多くをもたずとも暮らせませす。  
何かを買うときは熟考し、  
美意識にかなう選択をすれば、  
端正な生活空間が完成



ノルマンディー地方に大きな別荘を買った3年前、パリの家はコンパクトにしたいと考えたカトリーヌさん。このアパルトマンは17世紀の建築で、窓や共有スペースに優雅な趣を残しながら、内部は現代的に改装済み。彼女がデザイナーする、シックでモダンな家具のエスプリとびつたりだったそう。「週末を過ごす別荘はリラクゼーション目的。だから白を主体にエレガントで女性的に仕上げ、パリの家はベージュやグレイジ、黒を用いてシンプル＆男性的に、部屋づくりで第一条件として考えたのが、快適なリビングですね。仲の良い友人をデザイナーに招くことが多いため、皆がリラクセスできるインテリアがモットーです。台所は全面

07  
パリっぼく  
住む

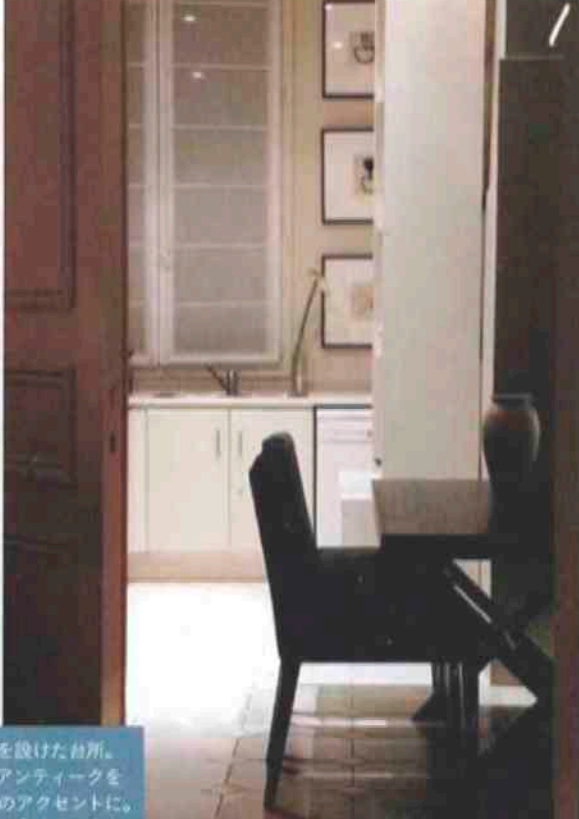
## 物を減らして 静寂な空間に

カトリーヌ・メミさん「カトリーヌ・メミ」デザイナー

改装をしてダイニングテーブルを置くスペースをつくり、大好きな陶器を飾る棚も設置。コンパクトながら機能的で気に入っています。家具はすべて自分のブランド。寝室は静けさを楽しむために、絵やオブジェなどは置かず、ベッドと読書灯、ソファを一つだけ。リビングもミニマルだがアート作品やアンティークを少しだけ飾り、アクセントをつけている。  
「物を減らして美しく生きるには、多くをもたずとも暮らせることを知り、何かを買うときは理由を探すに尽きます。造作や素材の良い家具、優れたアート……。端正で上質なものをひとつと決めれば、おのずと空間が洗練され、すっきりした家が完成します」



左/カトリーヌさんのブランドは今年創立20周年を迎えた。中/寝室には極力物を置かず静寂さを重視。ソファは新作。右/アート作品など好きなものを少しだけ飾る。



1. 食事スペースを設けた台所。  
 2. リトグラフやアンティークを  
 ミニマルな空間のアクセントに。  
 3. 書斎コーナー。「新しい家に  
 住むならどんな家具を買う？」と  
 考えデザインをします」 4. 新  
 作ソファ「バリ」はツイード素材。



小物のデコレーションは  
 モノトーンで揃える。  
 「色を足していくのではなく、引き  
 算で最終的に白と黒のモノト  
 ーン基調でまとめるという、フラン  
 ス流大人のインテリアの見本で  
 すね。ぬくもりのあるクラフト系  
 の白い陶器が同じく白の棚にた  
 くさん並べられている、そんな組  
 み合わせ方にセンスを感じます」  
 (スタイリスト・長山智美さん)

カトリーヌさんの  
 主まいプロフィール

- ・パリ6区
- ・購入したアパルトマン
- ・100m<sup>2</sup>の2LDK
- ・築400年
- ・夫と息子の3人暮らし

カトリーヌ・メミ・ギャルリー  
 新作家具、照明、テキスタイルを揃える  
 バリのショールーム兼ショップ。CATHE  
 RINE MEMMI Galerie ● 11 rue Saint-Su  
 lpicé 75006 Paris ☎+33(0)1-44-07-0  
 2-02 営10:30~19:00 日・月曜休 ww  
 w.catherinememmi.com 東京・青山の  
 「エインテリアズ」でも一部作品を販売。



フロアに  
 置く  
 ここが  
 Paris流